

綾瀬市立北の台小学校

研究テーマ：すすんで学び合う子の育成をめざして～「聴いて、考えて、伝え合う」力を～

1 実践の目的

本校では「伝え合いの土台」をもとに、子どもたちが主体的、協働的に学ぶこと（主体的・対話的で深い学び）を通して、「知識や経験をもとに課題を解決する力」「論理的に考える力」「自分の考えを表現する力」といった教科の枠を超えた社会で広く活用できる力（ジェネリック・スキル）を育てていきたいという願いをもって、研究を進めてきた。さらに、サブテーマを『「聴いて、考えて、伝え合う」力を』とし、学習したことを広く様々な場面で活用できる力のある児童のさらなる育成をめざしている。そこで、「伝え合うための北の台モデル」を活用し、段階を踏んで少しずつ伝え合う力を高めていけるよう、日々指導している。

また、「多面的に考え、表現できる子」という目指す児童像の重点目標「考える」ことについても力を入れて取り組み、子ども達が自分の意見だけでなく、他の意見も取り入れながら、考えを広げたり、深めたりしていけるように指導を進めてきた。

2 実践の内容

(1) 校内研究の体制

低・中・高・支援の4部会で、推進委員が中心となり、計画的に部会を運営している。「伝え合うための北の台モデル」の活用方法を検討し、実践を行い、改定をして、さらに良いものを作り上げていくことができるように話し合いを重ねてきた。

(2) 研究授業、研究協議

各部会でひとつの授業を公開し、4回の全体授業研究を行った。学年だけでなく、部会で案を出し合い、授業を作り上げていった。また、全体授業研究とは別に、全職員が研究テーマに迫るべく授業を公開し、部会ごとに授業についての協議時間を設けた。

(3) 公開教材研究会

本校では、全体授業研究前に公開教材研究日を設定している。30分程度の短い時間で実施し、意見を出しやすい雰囲気の中、皆で授業改善に向けて建設的な話し合いを行うことができ、授業者にとって自身の迷いや困り感を整理することのできる場となっていた。

(4) 研究を支える日々の実践について

① 伝え合うための北の台モデル

前年度に、北の台モデルを基にして各部会で作成した成果物を継続して活用したことで、伝え合う力の積み上げを図ることができた。

伝え合うための北の台モデル

1 **自分の考えを伝える。**
【自分の考えを伝える】
自分の考えを伝えることができるようになる。
【自分の考えを伝える】
自分の考えを伝えることができるようになる。
【自分の考えを伝える】
自分の考えを伝えることができるようになる。

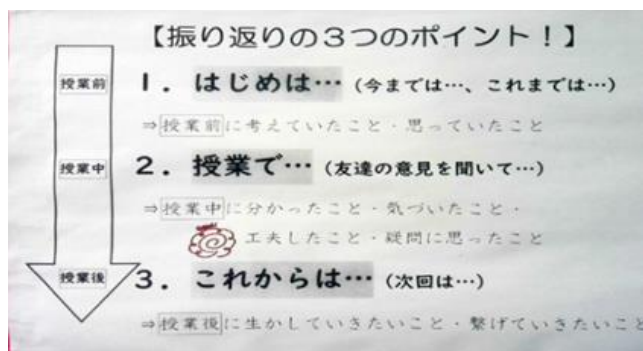
2 **聞き手も意識しながら、自分の考えを伝え合う。**
【自分の考えを伝える】
自分の考えを伝えることができるようになる。
【自分の考えを伝える】
自分の考えを伝えることができるようになる。
【自分の考えを伝える】
自分の考えを伝えることができるようになる。

3 **相手の考えを聞いて、つなげて話す。**
【相手の考えを聞く】
相手の考えを聞くことができるようになる。
【相手の考えを聞く】
相手の考えを聞くことができるようになる。
【相手の考えを聞く】
相手の考えを聞くことができるようになる。

4 **自分の考えをよまえて、考えを伝える。**
【自分の考えをよめる】
自分の考えをよめることができるようになる。
【自分の考えをよめる】
自分の考えをよめることができるようになる。
【自分の考えをよめる】
自分の考えをよめることができるようになる。

【伝え合うための北の台モデル】
「伝え合う」と「学ぶ」を繰り返すことで、伝え合う力を高めることができる。

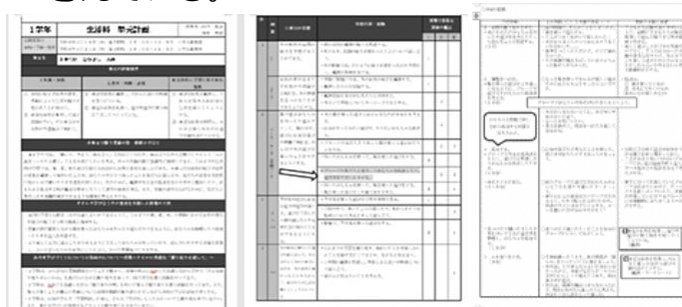
② 授業スタイルの共通化（振り返りを通して）



上図の《振り返りの3つのポイント》を教室の児童がいつでも見られるところに掲示し、書く力の向上を図った。また、これを基に各部会で発達段階に合ったものを作成し、掲示したことで、振り返りを書くことが定着してきている。

③ 単元シートの活用について

本校では、単元目標・単元の指導と評価の計画だけをまとめて記載した単元シートを作成している。また、研究授業はそれに加えて本時の展開も記載することとしている。児童に身に付けさせたい力を意識して、単元計画を立てることで、教師が見通しをもって指導することができ、この蓄積が、学校のカリキュラム作りにもつながっていくと考えている。



3 実践の成果と課題

(成果)

○伝え合う力の育成に重点を置いた結果、自分の考えを発信できる児童が増えた。また、意見を聞いた児童も、ただ同調

するだけでなく、考えをつないだり、膨らませたりするなど、深め合おうとする姿が見られるようになってきた。

○単元シートを活用することで、単元を通して目指す児童の姿や教師の願い、授業づくりや目標を達成するための必要な手立て等が簡潔明瞭に伝わり分かりやすかった。

(課題)

●各部会の取組や研究の進捗状況などの内容が、企画会議や職員会議などで全職員に共有されることが少なかった。各部会の研究を皆で共有してつないでいくことで、より良い研究にしていきたい。

4 今後の展開

本校の目指す児童像の重点目標である「多面的に考え、表現できる子」の育成を目指し、「考える」ことについて力を入れて取り組んできた。また、振り返りを書くことを通して、自分や友達の考え、学んだことを今後の学習にどう生かしていきたいかを考える力を育ててきた。しかし、1学期と3学期に行った児童アンケートでは振り返りについて「どちらかといえばできていない」と回答した割合が3学期は1学期に比べると1割ほど増加していた。これは、学習が進む中で書くことが難しくなった児童が増えたというよりは、書く力が向上したことで自身の書く力に満足できず、より良いものを書きたいと考えるようになった児童が増えたと担任は捉えている。

次年度も引き続き研究を深め、学習で培った「伝え合う」スキルや「書く」スキルを、学習の場面だけでなく生活の場面でも活用できるようにし、児童が前向きに学び続けられるように学校の全職員で協力して指導していきたい。